

intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver.7.0

エラーガイド

2010/11/30 第4版

<< 変更履歴 >>

変更年月日	変更内容
2008/07/07	初版
2008/08/22	第 2 版 「4.2 環境」を追加しました。
2008/10/31	第 3 版 「4.1.2 ログ出力ディレクトリの生成」を追加しました。
2010/11/30	第 4 版 「3.3.1 Microsoft SQL Server で nvarcharのカラムにINSERTした値が文字化けする」を追加しました。 「7.1 かんたんログイン」を追加しました。 「4.3 ファイルアップロード」を追加しました。

<< 目次 >>

1	導入編.....	1
1.1	サーバの起動	1
1.1.1	ServerManagerが起動しない	1
1.1.2	ServicePlatformが起動しない	2
1.1.3	Windowsサービスが起動時にエラーになる	4
1.1.4	Windowsサービスが停止する.....	4
1.1.5	64ビット Windows の IIS で「Service Unavailable」が表示される	5
1.2	データベース	6
1.2.1	システムデータベースに接続できない	6
1.2.2	グループデータベースに接続できない	7
1.3	ログイン	8
1.3.1	ログイン画面が表示されない	8
1.3.2	ログイン出来ない	8
1.3.3	ログイン後の画面にエラーが表示される	9
1.3.4	WebServer (Apache) で 2 バイト文字が化ける	9
2	管理者編.....	10
2.1	システム管理者	10
2.1.1	パスワードを忘れてしまった	10
2.1.2	初期データインポートでエラーが発生する	11
2.2	ログイングループ管理者	13
2.2.1	アカウントのライセンスが登録できない	13
2.2.2	ユーザプロファイルの期間の登録に失敗する	13
3	開発編.....	14
3.1	スクリプト開発モデル	14
3.1.1	実行時にjava.lang.IllegalStateExceptionが発生する	14
3.1.2	実行時にEcmaErrorが発生する	14
3.1.3	実行時にEvaluatorExceptionが発生する	15
3.1.4	WebPlatform (JBoss) で 2 バイト文字が化ける	15
3.2	JavaEE開発モデル	16
3.2.1	実行時にJavaCompileExceptionが発生する	16
3.3	データベースアクセス	16
3.3.1	Microsoft SQL Server で nvarcharのカラムにINSERTした値が文字化けする	16
4	運用編.....	17
4.1	エラーメッセージ	17
4.1.1	2重ログイン防止機能	17
4.1.2	ログ出力ディレクトリの生成	17
4.2	環境	18
4.2.1	ファイルサイズが大きくなる	18
5	ViewCreator編	20
5.1	クエリメンテナンス	20
5.1.1	同一のフィールド名が複数表示される	20
6	ワークフロー編	21
6.1	カテゴリ	21
6.1.1	カテゴリの登録が出来ない	21
6.1.2	カテゴリの削除が出来ない	21
6.2	プロセス定義	22

6.2.1	プロセス定義の削除が出来ない	22
6.2.2	プロセス定義の削除が出来ない	22
6.2.3	バージョンの削除が出来ない	23
6.2.4	バージョンの削除が出来ない	23
6.2.5	Workflow Designerが起動しない。	24
6.2.6	ルート設定で保存が出来ない	26
6.3	プロセス操作	30
6.3.1	プロセス操作が出来ない	30
6.3.2	振替が出来ない	31
6.4	その他	32
6.4.1	Workflow Designerがアンインストールできない	32
7	携帯端末編	33
7.1	かんたんログイン	33
7.1.1	かんたんログインの設定ができない (AccessSecurityConfigExceptionが発生する)	33
7.1.2	かんたんログイン用ログインページURLのWebサーバアドレスが間違っている	34
7.1.3	かんたんログインができない	34

1 導入編

1.1 サーバの起動

1.1.1 ServerManagerが起動しない

Q. ServerManager が起動しない。または、起動の途中で止まってしまう。

A. サーバの起動失敗にはいくつかの原因があります。

■ 原因1.

既に他のアプリケーション(サーバアプリケーションなど)が“同一のポートを使用している。

```
[ERROR] j.c.i.s.s.SystemController - Can't bind to *:49152.  
Check for another server listening to that port.  
java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind  
  at java.net.PlainSocketImpl.socketBind(Native Method)  
  at java.net.PlainSocketImpl.bind(PlainSocketImpl.java:359)  
  at java.net.ServerSocket.bind(ServerSocket.java:319)  
  at java.net.ServerSocket.<init>(ServerSocket.java:185)  
  at java.net.ServerSocket.<init>(ServerSocket.java:141)  
  at jp.co.intra_mart.system.net.SocketListener.<init>(SocketListener.java:62)  
  at jp.co.intra_mart.system.net.ServerSocketProvider.<init>(ServerSocketProvider.java:42)  
  at jp.co.intra_mart.system.service.SystemController.fire(SystemController.java:291)  
  at jp.co.intra_mart.system.service.AbstractServiceProvider.start(AbstractServiceProvider.java:71)  
  at jp.co.intra_mart.bin.server.core.ServiceProfile.start(ServiceProfile.java:61)  
  at jp.co.intra_mart.system.service.ServiceStartManager.run(ServiceStartManager.java:59)  
  at jp.co.intra_mart.bin.server.ServerController.main(ServerController.java:69)
```

ServerManager インストールでのデフォルトポートは、“49152”となっています。

(インストール中に変更は可能です。)

対象のサーバを停止するか、または ServerManager で利用するポートを変更してください。

ServerManager で利用するポートを変更する方法は以下の通りです。

ServerManager インストールディレクトリ/conf/imart.xml を編集します。

```
<administration>  
  <host address="192.168.0.1" />  
  <network port="49152" timeout="30">  
    <server backlog="8" threads="3" keep-alive="180" />  
  </network>  
</administration>
```

上記の値を変更した ServerManager のポートに変更します。

さらに各 ServicePlatform に対して以下の設定を行います。

ServicePlatform インストールディレクトリ/conf/imart.xml を編集します。

```
<administration>
  <host address="192.168.0.1" />
  <network port="49152" timeout="30">
    <server backlog="8" threads="3" keep-alive="180" />
  </network>
</administration>
```

上記の値を変更した ServerManager のポートに変更します。

分散構成の場合は、すべての ServicePlatform に対して変更が必要です。

■ 原因2.

試用期間が過ぎている。

試用期間が過ぎた場合、以下のようなメッセージが表示され、サーバは停止します。

```
[ERROR] j.c.i.s.s.LicenseDistributor - The use term of a license has expired: term is Tue Aug 7 10:00:00 JST 2008
```

試用期間は 60 日となっていますので、ライセンスを投入してください。

1.1.2 ServicePlatformが起動しない

Q. ServicePlatform が起動しない。または、起動の途中で止まってしまう。

A. サーバの起動失敗にはいくつかの原因があります。

■ 原因1.

サーバのポートが重複している。

```
[WARN] c.c.s.c.Server - java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind
Can't bind to *:8080.
Check for another server listening to that port.
java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind
Can't bind to *:80.
Check for another server listening to that port.
at com.caucho.vfs.QJniServerSocket.create(QJniServerSocket.java:105)
at com.caucho.vfs.QJniServerSocket.create(QJniServerSocket.java:61)
at com.caucho.server.port.Port.bind(Port.java:967)
at com.caucho.server.cluster.Server.bindPorts(Server.java:1375)
at com.caucho.server.cluster.Server.start(Server.java:1321)
at com.caucho.server.cluster.Cluster.startServer(Cluster.java:710)
at com.caucho.server.cluster.ClusterServer.startServer(ClusterServer.java:542)
at com.caucho.server.resin.Resin.start(Resin.java:703)
at com.caucho.server.resin.Resin.initMain(Resin.java:1157)
at com.caucho.server.resin.Resin.main(Resin.java:1360)
at sun.reflect.NativeMethodAccessorImpl.invoke0(Native Method)
at sun.reflect.NativeMethodAccessorImpl.invoke(NativeMethodAccessorImpl.java:39)
at sun.reflect.DelegatingMethodAccessorImpl.invoke(DelegatingMethodAccessorImpl.java:25)
at java.lang.reflect.Method.invoke(Method.java:585)
at jp.co.intra_mart.bin.server.core.WebApplicationServer.run(WebApplicationServer.java:259)
at java.lang.Thread.run(Thread.java:595)
```

対象のサーバを停止するか、または ServicePlatform で利用するポートを変更してください。

ServicePlatform インストールフォルダ/conf/http.xml を編集します。

```
<server>
.....
<!-- The http port -->
<http server-id="APP:192.168.0.1:8080" host="*" port="8080"/>
.....
</server>
```

```
<server>
.....
<cluster>
  <srun server-id="APP:192.168.0.1:6801" host="192.168.0.1" port="6801"/>
  <srun server-id="APP:192.168.0.1:6802" host="192.168.0.1" port="6802"/>
.....
</cluster>
.....
</server>
```

詳しくは、intra-mart WebPlatform セットアップガイド「3.3 WebServer の設定」をご覧ください。

ServicePlatform は下記のような状態で、接続できる ServiceManager が起動するまで、待ち状態になります。

ServicePlatform インストールディレクトリ/conf/imart.xml を編集します。

```
<administration>
  <host address="192.168.0.1"/>
  <network port="49152" timeout="30">
    <server backlog="8" threads="3" keep-alive="180" />
  </network>
</administration>
```

上記の値を変更した ServerManager の IP アドレスに変更します。

1.1.3 Windowsサービスが起動時にエラーになる

各サーバ(Server Manager、Service Platform)を Windows のサービスとして登録して、起動を行なうと起動時にエラーになる。

JavaVM のバージョンを確認してください。

JavaVMをインストールした後に Oracle をインストールすると、先にインストールした JavaVM のバージョンが上書きされてしまう場合があります。

JavaVM を一旦アンインストールして、再度インストールしてください。

以下のレジストリの場所で、“CurentVersion”が“1.4”以上になっていることを確認して下さい。

[HKEY_LOCAL_MACHINE]-[SOFTWARE]-[JavaSoft]-[Java Development Kit]

1.1.4 Windowsサービスが停止する

Windows のサービスとして動作させる場合、Windows のログオフを行うとサービスが停止してしまう。

以下のファイルの intra-mart/platform/java/server/command/option の項目に**-Xrs** オプションを追加してください。

インストールディレクトリ/conf/imart.xml

```
<intra-mart>
  <platform>
    <java>
      <server>
        <command>
          <option>-cp %SYSTEMCLASSPATH% -Xms%XMS% -Xmx%XXM%
            -Xrs java.awt.headless=true</option>
          <command>
        </server>
      </java>
    </platform>
  </intra-mart>
```

1.1.5 64ビット Windows の IIS で「Service Unavailable」が表示される

Q. WebServer に 64 ビット Windows のインターネットインフォメーションサービス (IIS) を使用し、ログイン画面を表示しようすると Web ブラウザ上に「Service Unavailable」と表示され、またイベントビューワのアプリケーションログに以下のようなエラーが発生している。

サイト/サービスの ISAPI フィルタをすべて読み込めませんでした。サービスの開始を中止します。
(以下、省略)

構成の問題のため、ISAPI フィルタ'xxxxx¥isapi_srun.dll'を読み込むことができませんでした。
(以下、省略)

A. 64 ビット Windows で 32 ビット アプリケーションを実行するように IIS を構成してください。

64 ビット Windows で 32 ビットアプリケーションを実行するように IIS を構成するには、以下を実行してください。

1. コマンド プロンプトを開き、%systemdrive%¥Inetpub¥AdminScripts ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを入力します。
cscript.exe adsutil.vbs set W3SVC/AppPools/Enable32BitAppOnWin64 "true"
3. Enter キーを押し、コマンド実行します。
4. IIS を再起動し、設定を反映させます。

詳細については、以下をご覧ください。

64 ビット Windows で 32 ビット アプリケーションを実行するように IIS を構成する (IIS 6.0)

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/ja/library/e7fa2e6b-148e-45f7-96f1-35df6cdb888a1041.mspx?mfr=true>

1.2 データベース

1.2.1 システムデータベースに接続できない

Q. システムデータベースに接続できない。

A. システムデータベースの設定を確認してください。

システムデータベースへの接続には、以下の設定が必要です。

1. JDBCドライバの配置
ApplicationRuntime (ServicePlatform) インストールディレクトリ/**lib** フォルダに JDBCドライバのファイルをコピーします。
2. DataSource の登録
ApplicationRuntime (ServicePlatform) インストールディレクトリ/**conf/http.xml** を編集します。
<server>タグ内に DataSource の設定を追記します。(例:oracle の場合)

```
<database>
<jndi-name>jdbc/データソース名(任意の名前)</jndi-name>
<driver>
  <type>oracle.jdbc.pool.OracleConnectionPoolDataSource</type>
  <url>jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:dbname</url>
  <user>データベース接続ユーザ名</user>
  <password>データベース接続パスワード</password>
</driver>
<prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
<max-connections>20</max-connections>
<max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```

http.xml ファイル内にデータベース毎の設定の例が記述されていますので、参考にして記述してください。

3. DataSource と接続 ID の紐付け
ServerManager インストールディレクトリ/**conf/data-source.xml** を編集します。
<system-data-source>タグを追記します。

```
<system-data-source>
  <connect-id>接続 ID(任意の名称)</connect-id>
  <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/データソース名(任意の名前)</resource-ref-name>
</system-data-source>
```

データソース名は、2での設定内容と同じにしてください。同じにすることで**接続 ID** と **DataSource** の紐付けが行われます。

DatabaseManager の API を利用する場合は、**接続 ID** を使用して、接続を行います。

1.2.2 グループデータベースに接続できない

Q. グループデータベースに接続できない。

A. グループデータベースの設定を確認してください。

グループデータベースは、ログイングループに対して、デフォルトで利用されるデータベースです。
ログイングループに対して、必ず1つ設定しなければいけません。

ログイングループへの接続には、以下の設定が必要です。

1. JDBC ドライバの配置

ApplicationRuntime (ServicePlatform) インストールディレクトリ/**lib** フォルダに JDBC ドライバのファイルをコピーします。

2. DataSource の登録

ApplicationRuntime (ServicePlatform) インストールディレクトリ/**conf/http.xml** を編集します。
<server>タグ内に DataSource の設定を追記します。(例:oracle の場合)

```
<database>
<jndi-name>jdbc/データソース名(任意の名前)</jndi-name>
<driver>
<type>oracle.jdbc.pool.OracleConnectionPoolDataSource</type>
<url>jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:dbname</url>
<user>データベース接続ユーザ名</user>
<password>データベース接続パスワード</password>
</driver>
<prepared-statement-cache-size>8</prepared-statement-cache-size>
<max-connections>20</max-connections>
<max-idle-time>30s</max-idle-time>
</database>
```

http.xml ファイル内にデータベース毎の設定の例が記述されていますので、参考にして記述してください。

3. DataSource とログイングループの紐付け

ServerManager インストールディレクトリ/**conf/data-source.xml** を編集します。
<group-data-source>タグを追記します。

```
<group-data-source>
<login-group-id>ログイングループ ID</login-group-id>
<resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/データソース名(任意の名前)</resource-ref-name>
</group-data-source>
```

データソース名は、2での設定内容と同じにしてください。同じにすることでログイングループ ID と **DataSource** の紐付けが行われます。

DatabaseManager の API を利用する場合は、ログイングループ ID を使用して、接続を行います。

1.3 ログイン

1.3.1 ログイン画面が表示されない

Q. URL を指定しても intra-mart のログイン画面が表示されない。

A. ブラウザで指定している URL を確認してください。

ログイン画面には、以下の 3 種類の URL があります。

- | | | |
|---|---|---------|
| ◆ | http://サーバコンピュータ名/imart/system.admin | システム管理者 |
| ◆ | http://サーバコンピュータ名/imart/ログイングループ ID.manager | グループ管理者 |
| ◆ | http://サーバコンピュータ名/imart/ログイングループ ID.portal | 一般ユーザ |

これらの URL が正しく指定されているか確認してください。

また、httpポートに[80]以外を指定している場合には、URL にポート番号も含めて URL を指定してください。

- | | | |
|---|--|---------|
| ◆ | http://サーバコンピュータ名: ポート番号 /imart/system.admin | システム管理者 |
| ◆ | http://サーバコンピュータ名: ポート番号 /imart/ログイングループ ID.manager | グループ管理者 |
| ◆ | http://サーバコンピュータ名: ポート番号 /imart/ログイングループ ID.portal | 一般ユーザ |

また、WebServerConnector を使用している場合は、使用している WebServer 及び“インストールディレクトリ/conf/http.xml”の設定を合わせて確認してください。

詳しくは、intra-mart AppFramework セットアップガイド「3.3.2 WebServer の設定」をご覧ください。

1.3.2 ログイン出来ない

Q. ログイン画面で、ユーザ名／パスワードを入力しても intra-mart へログインすることが出来ない。

A. ログイン出来ないことにはいくつかの原因があります。

■ **原因1.**

ライセンスが設定されていない。

ログインを行なおうとしているユーザにライセンスを付与してください。

■ **原因2.**

ユーザ名とパスワードが正しく入力されていない。

ユーザ名及びパスワードは大文字／小文字を区別しますので、厳密に入力してください。

■ 原因3.

JavaScript が許可されていない。

intra-mart はクライアントサイドの JavaScript を使用しています。ブラウザの設定で JavaScript を許可してください。

■ 原因4.

cookie が許可されていない。

intra-mart は cookie を使用しています。ブラウザの設定で cookie を受け入れるようにしてください。

1.3.3 ログイン後の画面にエラーが表示される

ログイン後の画面に、以下のようなエラーが表示される。

```
com.caucho.jsp.JspParseException: Resin can't execute the compiler `javac'.  
This usually means that the compiler is not in the operating system's PATH  
or the compiler is incorrectly specified in the configuration. You may  
need to add the full path to <java compiler='javac' />.
```

JavaVM が正しくインストールされていないことを表します。

intra-mart を動作させるための JavaVM が、「JDK」ではなく「JRE」を利用しているため、このようなエラーメッセージが出力されます。

intra-mart を動作させるためには、JavaVM (JDK) が必要です。

JavaVM を「JDK」に変更してください。

1.3.4 WebServer (Apache) で 2 バイト文字が化ける

Q. WebServer に Apache を使用すると 2 バイト文字が化ける。

A. Apache の設定を確認してください。

Apache ではページ毎に META タグで“charset”指定をしていますが、標準設定で“charset”を補う設定があります。このために、ブラウザ側で文字化けが発生することがあります。

Apache インストールディレクトリ/conf/httpd.conf

```
AddDefaultCharset off
```

詳細については、<http://www.apache.org/> をご覧下さい。

2 管理者編

2.1 システム管理者

2.1.1 パスワードを忘れてしまった

Q. システム管理者のパスワードを忘れてしまいました。

A. 一時的にシステム管理者で必ずログインできるように設定を変更することが出来ます。

ServerManager インストールディレクトリ/conf/access-security.xml の security-config を編集します。

```
<security-config>
.....
<super-user-security>
.....
  <certification>
    <certification-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.SuperUserNoCertification</certification-class>
  </certification>
.....
</super-user-security>
.....
</security-config>
```

ServerManager サーバを再起動します。

システム管理者でログインして、パスワードを変更してください。

事態を回避できた後は、セキュリティ上、必ず設定を元の状態に戻してください。

2.1.2 初期データインポートでエラーが発生する

Q. データベースに Oracle Database 10g Release 2 を使用した環境で、初期データインポートを行うと「SQL エラーが発生しました。」と表示される。

システムライセンス	
ライセンス	Registered License.
プロダクトタイプID	FA
バージョン	7.0.0 Production-model[Advanced Edition]
最大アプリケーションランタイム数(サーバ数)	Unlimited.
最大ユーザライセンス数	Unlimited.
インストール日時	06/24,2008 13:28
ライセンス期限	07/31,2008 23:59
言語パックライセンス	
管理メニューインポート	<input type="button" value="インポート"/>
初期データインポート	default <input type="button" value="インポート"/>
サンプルデータインポート	default <input type="button" value="インポート"/>

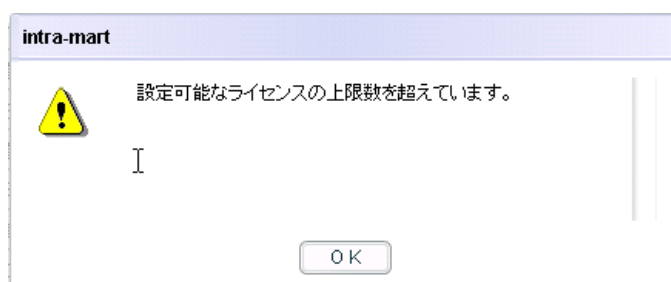
項目	結果
テーブル作成(データベース)	データベース 接続に失敗しました。 system/basic/appCreateTable.sql
ロール	インポートに失敗しました。 system/basic/init-role.xml
アカウント	インポートに失敗しました。 system/basic/init-account.xml
メニュー	インポートに失敗しました。 system/basic/init-menu.xml
カレンダー	インポートに失敗しました。 system/basic/init-calendar.xml
パッチ	インポートに失敗しました。 system/basic/init-batch-master.xml
アクセスコントローラ	インポートに失敗しました。 system/basic/init-access-controller.xml
Webサービスアクセス	インポートしませんでした。
レコード作成(データベース)	データベース 接続に失敗しました。 system/basic/appInsert.sql
拡張インポート(プログラム)	インポートに失敗しました。 system/init/distribute_batch_config.js jp.co.intra_mart.foundation.portal.common.portletadmin.mbeans.PortletImport system/init/import_portal.js

A. Oracle Database 10g Release 2 の場合、CONNECT ロールには CREATE SESSION 権限のみが付与され、関連する他の権限は付与されていません。そのため、CREATE VIEW 権限を明示的に付与する必要があります。

2.2 ログイングループ管理者

2.2.1 アカウントのライセンスが登録できない

Q. 下記のメッセージが表示され、アカウントのライセンスが登録できない。



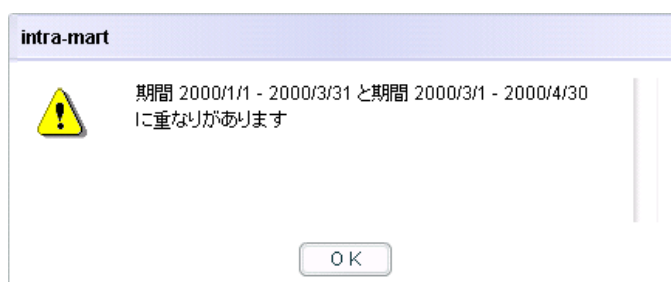
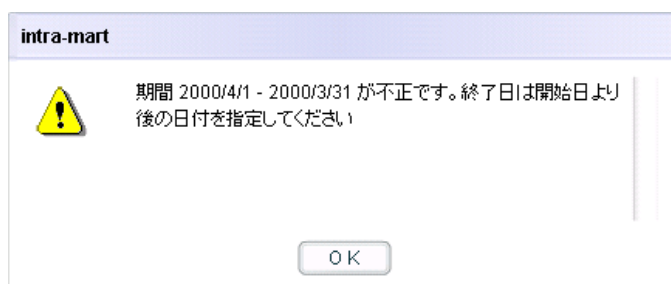
A. 既に対象のログイングループに割り当てられた最大のライセンス数分のライセンスを使用しているため、ライセンスを新たに登録することが出来ません。

使用していないユーザのライセンスを削除して、使用できるライセンスを確保してください。

または、システム管理者により、対象のログイングループの最大ライセンスを大きくするか、無制限に変更してください。

2.2.2 ユーザプロファイルの期間の登録に失敗する

Q. ユーザプロファイルの期間の登録に失敗する。



A. 期間の開始日より終了日が過去の場合は、登録が出来ません。

また複数期間が存在する場合は、各期間どうしが重なってはいけません。

3 開発編

3.1 スクリプト開発モデル

3.1.1 実行時にjava.lang.IllegalStateExceptionが発生する

Q. スクリプト開発モデルの実行で java.lang.IllegalStateException が発生する。

```
java.lang.IllegalStateException: JSSP execute error.  
...  
...  
Caused by: java.io.FileNotFoundException: File is not found: ApplicationRuntime インストールフォルダ/  
pages/実行しようとしたファイルパス
```

A. 指定されたスクリプト開発モデルで作成されたファイルの実行に失敗したことを表します。

ポイントは、エラーが発生した原因を確認することです。

Caused by: から始まる行に着目してください。

java.io.FileNotFoundException はファイルが存在しないことを意味します。

実行しようとしたファイルのパスが表示されていますので、ファイルの存在を確認してください。

また、実行しようとしたパスが正しいかどうか確認してください。

スクリプト開発モデルでは、システムは複数のフォルダからファイルを探そうとします。

標準の設定では、以下の順序でファイルを検索します。最初に見つかったものを実行します。

1. ApplicationRuntime インストールフォルダ/pages/src
2. ApplicationRuntime インストールフォルダ/pages/product/src
3. ApplicationRuntime インストールフォルダ/pages/platform/src

通常、ユーザが作成したファイルは、ResourceService インストールフォルダ/pages/src に配置しますので、このフォルダ以下のパスに実行しようとするファイルが存在するか確認してください。

3.1.2 実行時にEcmaErrorが発生する

Q. スクリプト開発モデルの実行で EcmaError が発生する。

```
jp.co.intra_mart.system.javascript.EcmaError:  
ReferenceError: "getData" is not defined.(実行しようとしたパス # エラーが発生した行数)  
.....
```

A. 指定されたスクリプト開発モデルで作成されたプログラムで関数および変数の宣言のエラーがあることを表します。getData という関数または変数が宣言されていないことを意味します。

呼び出される関数または変数が存在するか、または、呼び出し元関数の記述に誤りがないか確認してください。

() 内には、そのエラーが発生した行数が表示されているので、その行を確認してください。

3.1.3 実行時にEvaluatorExceptionが発生する

Q. スクリプト開発モデルの実行で EvaluatorException が発生する。

```
jp.co.intra_mart.system.javascript.EvaluatorException: syntax error ①
(実行しようとしたパス # エラーが発生した行数)
.....

jp.co.intra_mart.system.javascript.EvaluatorException: missing } after function body ②
(実行しようとしたパス # エラーが発生した行数)
.....

jp.co.intra_mart.system.javascript.EvaluatorException: missing ) after argument list ③
(実行しようとしたパス # エラーが発生した行数)
.....
```

A. 指定されたスクリプト開発モデルで作成されたプログラムに構文エラーがあることを表します。

- ① 構文エラーを意味します。ステートメントおよび関数宣言が正しいか確認してください。
- ② 対となる“{”の数が合わないことを意味します。“{”の記述に誤りがないか確認してください。
- ③ 関数の引数の表記方法に誤りがあることを意味します。関数の記述に誤りがないか確認してください。

()内には、そのエラーが発生した行数が表示されているので、その行またはその付近の行を確認してください。

3.1.4 WebPlatform(JBoss)で2バイト文字が化ける

Q. スクリプト開発モデルの以下の IMART タグを使用すると、2バイト文字が文字化けします。

```
<IMART type="frame">
<IMART type="link">
```

A. 以下のファイルの<Connector>タグに設定を追加してください。

```
JBoss インストールディレクトリ/ /server/imart/deploy/jboss-web.deployer/server.xml
<Connector port="8080" address=" ${jboss.bind.address}"
  maxThreads="250" maxHttpHeaderSize="8192"
  emptySessionPath="true" protocol="HTTP/1.1"
  enableLookups="false" redirectPort="8443" acceptCount="100"
  connectionTimeout="20000" disableUploadTimeout="true"
  useBodyEncodingForURI="true" />
```

3.2 JavaEE開発モデル

3.2.1 実行時にJavaCompileExceptionが発生する

Q. JavaEE 開発モデルの実行で **JavaCompileException** が発生する。

```
com.caucho.java.JavaCompileException: 実行しようとしたパス : エラーが発生した行数: シンボルを解決できません。  
①  
シンボル: メソッド getData ()  
.....  
  
com.caucho.java.JavaCompileException: 実行しようとしたパス : エラーが発生した行数: 式の開始が不正です。  
②  
.....  
  
com.caucho.java.JavaCompileException: 実行しようとしたパス : エラーが発生した行数: ';'がありません。  
③  
.....
```

A. 指定された JSP ファイルに構文エラーがあることを表します。

- ① 関数および変数が宣言されていません。変数および関数宣言が正しいか確認してください。
- ② 対となる“()”の数が合わないことを意味します。“()”の記述に誤りがないか確認してください。
- ③ 処理行の文末に“;”がないことを意味します。文末に“;”があるかどうか確認してください。

()内には、そのエラーが発生した行数が表示されているので、その行またはその付近の行を確認してください。

3.3 データベースアクセス

3.3.1 Microsoft SQL Server で nvarcharのカラムにINSERTした値が文字化けする

Microsoft SQL Server で nchar, nvarchar など Unicode 対応されたカラムを利用する場合

SQL 文で nvarchar のカラムに対して、リテラル文字列を利用して比較(WHERE 句)および代入 (SET 句)を行う場合は以下のように記述する必要があります。

```
update table_name set name = N'草莓' where name = N'芒果'
```

リテラル文字列の前に N を付加します。

N を付加しない場合、特に中国語など Unicode で表される文字は文字化けや条件にマッチしないことがあります。バインド変数?を用いる場合は、この問題は発生しません。

4 運用編

4.1 エラーメッセージ

4.1.1 2重ログイン防止機能

Q. 2重ログイン防止機能が機能していない。また、次のようなメッセージが出力されている。

```
jp.co.intra_mart.foundation.security.exception.ActiveSessionException:  
アクティブなセッション情報の処理中にエラーが発生しました。  
...(省略)  
Caused by: java.sql.SQLException: ORA-12899:  
列"SAMPLE"."B_M_ACTIVE_SESSION_INFO"."SESSION_ID"の値が大きすぎます  
(実際:130、最大: 128)  
...(省略)
```

A. 2重ログイン防止機能が正常に機能していないことを表します。

アプリケーションサーバで、セッションIDのサイズが、128バイトを超えるサイズを指定している場合に発生します。

この場合、テーブル「b_m_active_session_info」の列「session_id」のサイズをセッションIDの最大バイト数より大きい値に設定してください。

4.1.2 ログ出力ディレクトリの生成

Q. サーバ(ServicePlatform)起動時に、次のようなメッセージが出力されている。

```
java.io.FileNotFoundException: ${インストールディレクトリ}/log/任意で指定したログディレクトリ/xxx.log (指定されたパスが  
見つかりません。)  
    at java.io.FileOutputStream.openAppend(Native Method)  
    at java.io.FileOutputStream.<init>(FileOutputStream.java:177)  
    at java.io.FileOutputStream.<init>(FileOutputStream.java:102)  
    ... (省略)  
  
!!!! Please check your LOGBACK configuration file !!!!
```

A. \${インストールディレクトリ}/conf/log 配下の設定ファイル(xml)内で、ログの出力先に指定した任意のディレクトリが存在していないことを表します。

※ 設定ファイル(xml)内でログの出力先に任意のディレクトリを指定した場合にのみ発生します。

サーバ(ServicePlatform)を起動する前に、ログの出力先としてディレクトリ(任意のディレクトリ)を作成してください。

4.2 環境

4.2.1 ファイルサイズが大きくなる

Q. work/httpd/session/ のファイルサイズが大きくなる

A. 下記の環境でシステム構築をして運用した場合に、ファイルサイズが大きくなるが確認されています。

- WebServerConnector を利用している
- スタンドアロン (http サーバ機能は使わない)

このような場合、サーバを再起動するときに、適宜削除を行ってください。

また、設定ファイル `conf/http.xml` の以下の設定をコメントアウトすることで、ファイルサイズが大きくなるが確認されています。

```
<resin:if test="${resin.isProfessional()}">
  <persistent-store type="cluster">
    <init path="work/httpd/session"/>
  </persistent-store>
</resin:if>
```

```
<session-config>
  <use-persistent-store>true</use-persistent-store>
  <always-save-session/>
</session-config>
```

4.3 ファイルアップロード

4.3.1 一時ファイルが削除されない

Q. ファイルをアップロードすると一時ファイルが作成され、削除されない場合がある。

A. ファイルアップロード後、ガベージコレクタが実行される前に `intra-mart` が停止すると一時ファイルは削除されません。

`intra-mart7.0.6` から、アップロードされたファイルが指定した閾値を超えた場合、メモリ上ではなく一時ファイルに書き出し、`OutOfMemoryError` の発生を抑えることができるようになりました。内部では `Apache Commons FileUpload` を利用しています。

一時ファイルは、ガベージコレクタがアップロードされたファイルのインスタンスを解放するタイミングで削除されます。従いまして、アップロードされたファイルのインスタンスが解放される前に `intra-mart` が停止すると一時ファイルは削除されません。

一時ファイルの格納先は、デフォルトでは `ApplicationRuntime` が動作するサーバの `Java` のテンポラリフォルダ (`java.io.tmpdir`) です。具体的なパスは、`ApplicationRuntime` のインストールディレクトリ直下にある `environment.txt` に `java.io.tmpdir` をキーとして記載されています。ファイル名は `upload_ランダムな文字列.tmp` です。

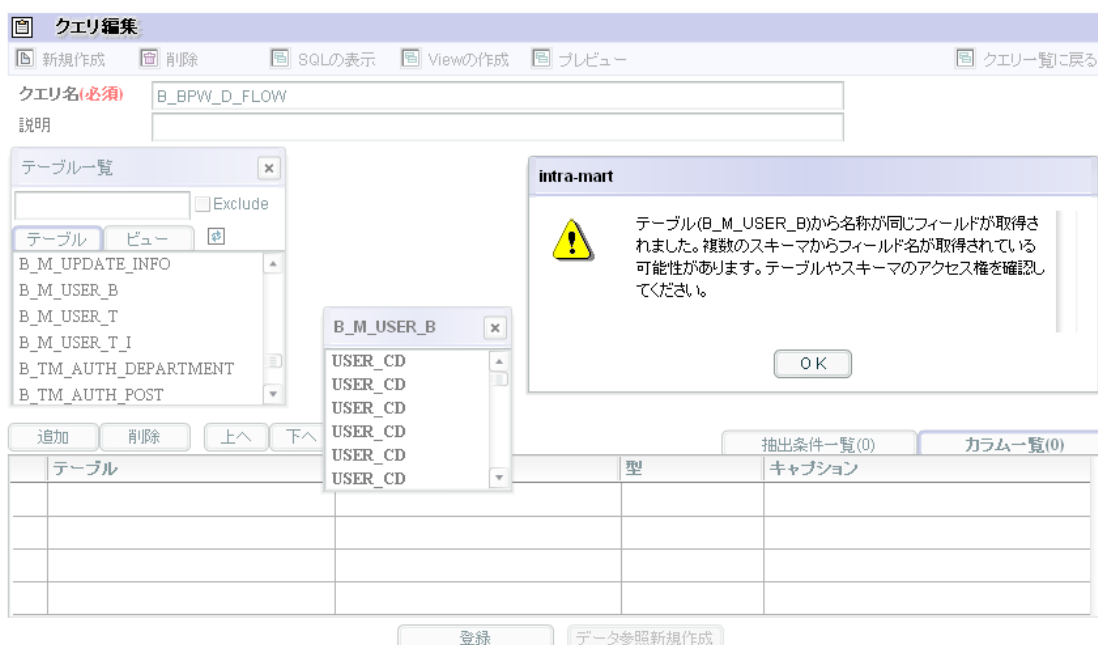
ディスク容量を圧迫するようであれば、定期的にファイルを削除してください。

5 ViewCreator 編

5.1 クエリメンテナンス

5.1.1 同一のフィールド名が複数表示される

Q. テーブル一覧からテーブルを選択すると、エラーメッセージが表示され、同一のフィールド名が複数表示される。



A. 次の 2 つの条件に該当すると発生します。

同一データベース内に複数のスキーマが存在している

データベースの接続に使用しているユーザが、複数のスキーマに対してアクセス権を持っている

この現象を回避するには、次のような方法があります。

同一データベース内に複数のスキーマを作成しない


データベースの接続に使用しているユーザが、単一のスキーマに対してのみアクセス権を持つように設定する

6 ワークフロー編

6.1 カテゴリ

6.1.1 カテゴリの登録が出来ない

Q. カテゴリを新規に登録しようとすると以下のようなメッセージが出て、登録を行なうことが出来ない。

 指定した名称は既に使用されています。

既に存在するカテゴリ名または、プロセス定義名が指定されています。
名称を変更して、再度処理を行ってください。


NEXT

A. カテゴリ名称が同じカテゴリを複数登録することは出来ません。

カテゴリ名称を他の名称に変更してから登録してください。

6.1.2 カテゴリの削除が出来ない

Q. カテゴリの削除を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、削除を行なうことが出来ない。

 この処理を行う事はできません。

有効なプロセス定義が存在しています。
カテゴリ情報の削除を行う場合、関連するプロセス定義を全て削除した後、再度処理を行ってください。

NEXT


A. 削除を行なおうとしているカテゴリに、プロセス定義が紐づけられています。

カテゴリの削除を行なう前に、紐づけられている全てのプロセス定義を削除するか、全てのプロセス定義のカテゴリを変更してください。

6.2 プロセス定義

6.2.1 プロセス定義の削除が出来ない

Q. プロセス定義の削除を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、削除を行なうことが出来ない。

 この処理を行う事はできません。
処理中のプロセスが存在するため、定義情報の更新ができません。 関連する全てのタスク(プロセス)の終了を確認後、再度処理を行ってください。
<input type="button" value="NEXT"/>


A. 削除を行なおうとしているプロセス定義には、既に起票を行っている案件が存在します。

起票済みの案件が存在する場合は、削除を行なうことは出来ません。

削除を行なうには、「プロセス操作」画面より対象の案件を削除後、プロセス定義の削除を行なってください。

6.2.2 プロセス定義の削除が出来ない

Q. プロセス定義の削除を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、削除を行なうことが出来ない。


 この処理を行う事はできません。
プロセス定義情報を削除する際、関連する履歴情報が存在するため削除を行う事ができません。 関連する履歴情報を削除した後、再度処理を行ってください。 また、このプロセスが他のプロセスのサブプロセスとなっている場合は削除できません。
<input type="button" value="NEXT"/>

A. 削除を行なおうとしているプロセス定義がサブプロセスの場合に、このようなエラーが表示されます。

サブプロセスを削除する前に、親プロセスを削除を行なうか、親プロセスからサブプロセスタスクを削除してください。

6.2.3 バージョンの削除が出来ない

Q. バージョンの削除を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、削除を行なうことが出来ない。

 この処理を行う事はできません。
処理中のプロセスが存在するため、定義情報の更新ができません。 関連する全てのタスク(プロセス)の終了を確認後、再度処理を行ってください。
<input type="button" value="NEXT"/>


A. 削除を行なおうとしているバージョンには、既に起票を行っている案件が存在します。

起票済みの案件が存在する場合は、削除を行なうことは出来ません。

削除を行なうには、「プロセス操作」画面より対象の案件を削除後、プロセス定義の削除を行なってください。

6.2.4 バージョンの削除が出来ない

Q. バージョンの削除を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、削除を行なうことが出来ない。

 この処理を行う事はできません。
該当情報を削除する際に、関連するデータが最後の1件となっています。 最後の1件を削除するためにはプロセス定義より削除を行ってください。
<input type="button" value="NEXT"/>

A. バージョンが1つしかない場合には、バージョンを削除することはできません。

プロセス定義自体が不要の場合は、プロセス定義の削除を行なってください。

また、バージョンのみ不要の場合は、バージョン追加後に削除を行なってください。

6.2.5 Workflow Designerが起動しない。



Q. 編集ボタンを押下すると以下のようなメッセージが出て、Workflow Designer が起動しない。



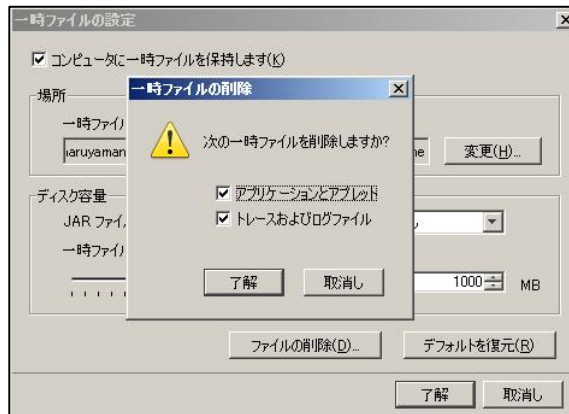
A. Workflow Designer を使用するためには、Java Plug 環境が必要になります。
Java Plug をインストールしてください。

Q. 編集ボタンを押下すると以下のようなメッセージが出て、Workflow Designer が起動しない。

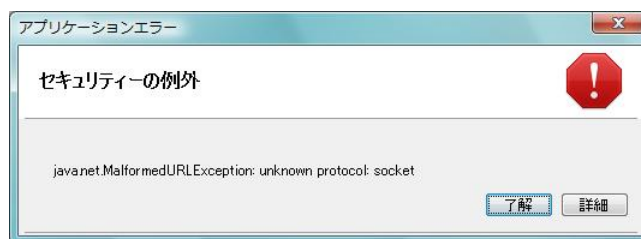


A. このような現象が発生したら、下記の手順でキャッシュを削除してください。
(WindowsXP + JRE1.6 での操作手順です。)

1. スタートメニューより、[設定]-[コントロールパネル]-[Java]を選択します。
2. Java コントロールパネルより、[基本]タブの[インターネット一時ファイル]より、設定を選択します。
3. 一時ファイルの設定より、[ファイルの削除]を行います。

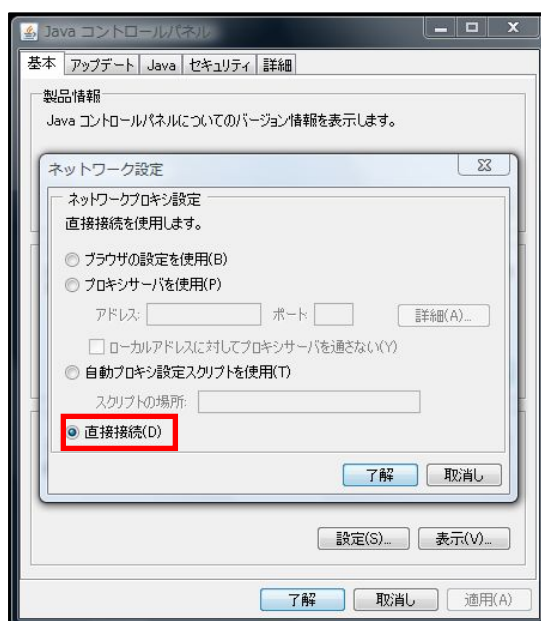


Q. 編集ボタンを押下すると以下のようなメッセージが出て、Workflow Designer が起動しない。



A. プロキシサーバ等を経由して利用している環境で、このようなメッセージが表示されることがあります。
このような現象が発生したら、下記の手順でネットワーク設定を行ってください。
(WindowsVista + JRE1.6 での操作手順です。)

1. スタートメニューより、[設定]-[コントロールパネル]-[Java]を選択します。
2. Java コントロールパネルより、[基本]タブの[ネットワーク設定]より、ネットワーク設定を選択します。
3. ネットワーク設定より、[ネットワークプロキシ設定]で、“直接接続”を選択します。

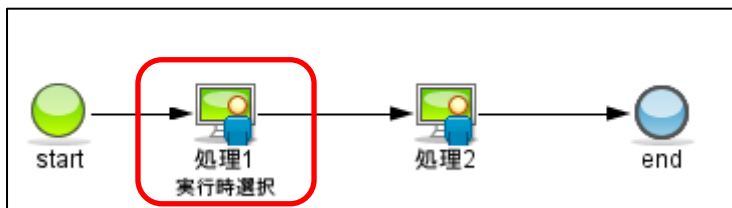


6.2.6 ルート設定で保存が出来ない

Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

起案タスクには、動的な対象者の設定は出来ません。

A. フローの先頭タスクには、“動的な処理者”(※)タスクを設定することはできません。

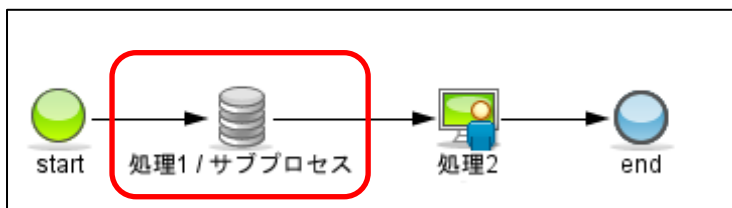


(※)動的な処理者とは、「実行時選択」「申請者」「所属組織の処理者」「上位組織の処理者」です。

Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

先頭タスクに、サブプロセスは登録できません。

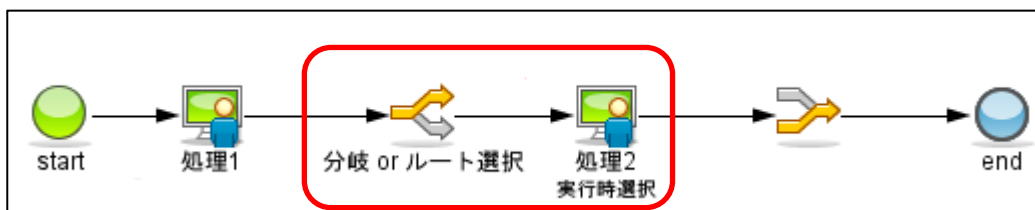
A. フローの先頭タスクには、“サブプロセス”タスクを設定することはできません。



Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

分岐開始直後には、対象者に実行時選択は設定できません。

A. 「分岐」・「ルート選択」開始直後には、“実行時選択”タスクを設定することはできません。



Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

同期開始直後には、対象者に実行時選択は設定できません。

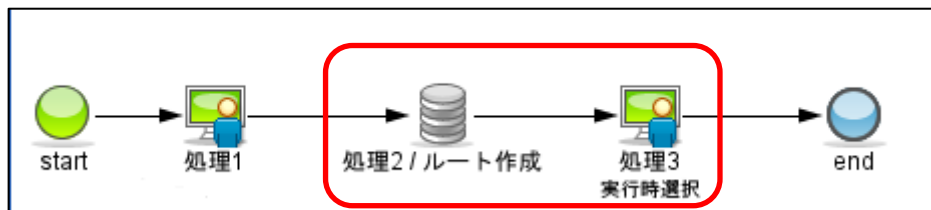
A. 「同期」開始直後には、“実行時選択”タスクを設定することはできません。



Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

サブプロセスに申請者／承認者ルート作成ワークフローのプロセスが設定されている場合は、サブプロセスの直後の対象者に実行時選択を設定することはできません。

A. 「ルート作成」直後には、“実行時選択”タスクを設定することはできません。



Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

申請者／承認者ルート作成ワークフローのプロセスが設定されているサブプロセスを並べて設定する事はできません。

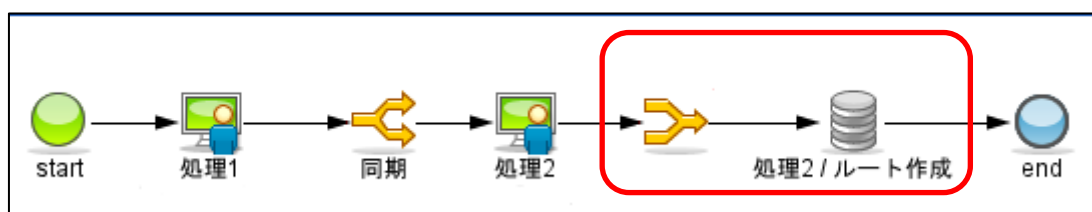
A. “ルート作成”タスクを並べて設定することはできません。



Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

サブプロセスに申請者／承認者ルート作成ワークフローのプロセスが設定されている場合は、分岐開始直後、同期開始・結合直後にサブプロセスを設定することはできません。

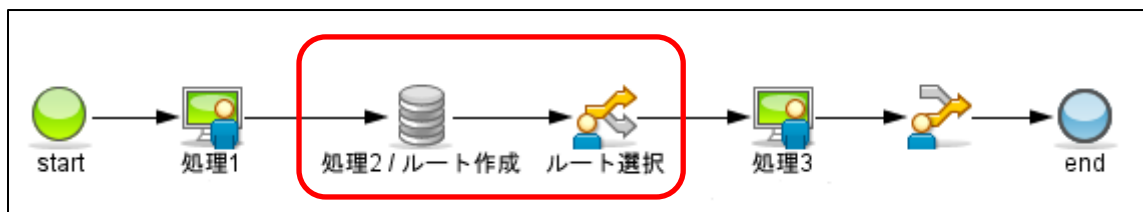
A. 「分岐」・「同期」開始直後および「同期」結合直後には、“ルート作成”タスクを設定することはできません。



Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

サブプロセスに申請者／承認者ルート作成ワークフローのプロセスが設定されている場合は、サブプロセスの直後にルート選択を設定することはできません。

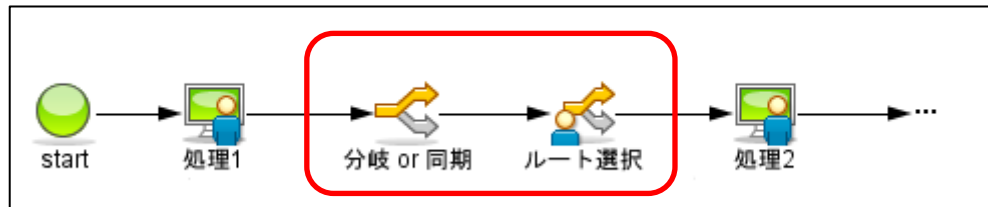
A. 「ルート作成」直後には、“ルート選択”タスクを設定することはできません。



Q. ルート設定画面で保存を行なおうとすると以下のようなメッセージが出て、保存を行なうことが出来ない。

分岐開始直後、同期開始・結合直後、ルート選択開始直後にルート選択を設定することはできません。

A. 「分岐」「同期」開始直後および「同期」結合直後には、“ルート選択”タスクを設定することはできません。



6.3 プロセス操作

6.3.1 プロセス操作が出来ない

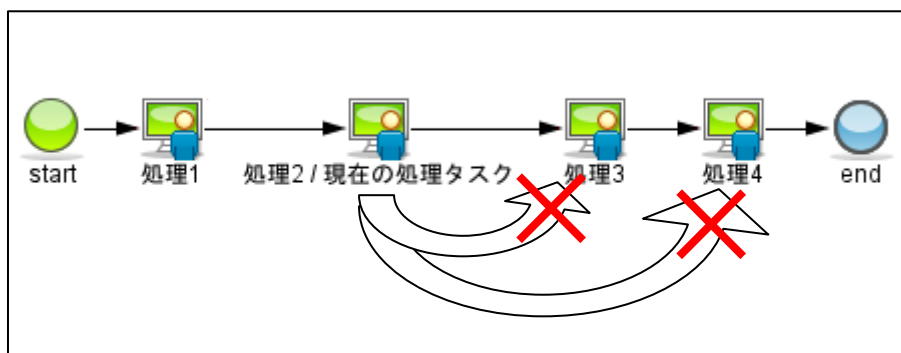
Q. プロセス操作画面でタスクの状態を変更しようとする以下のようなメッセージが出て、操作を行なうことが出来ない。



該当タスクへプロセス操作を行う事はできません。

プロセス操作は、今までフローされてきたタスクへ戻す操作のみが可能となります。
今までフローされてきたタスクを再度指定して操作を行って下さい。

A. プロセス操作は、処理を戻す操作のみが可能となっています。下記のように、処理を進める操作はできません。



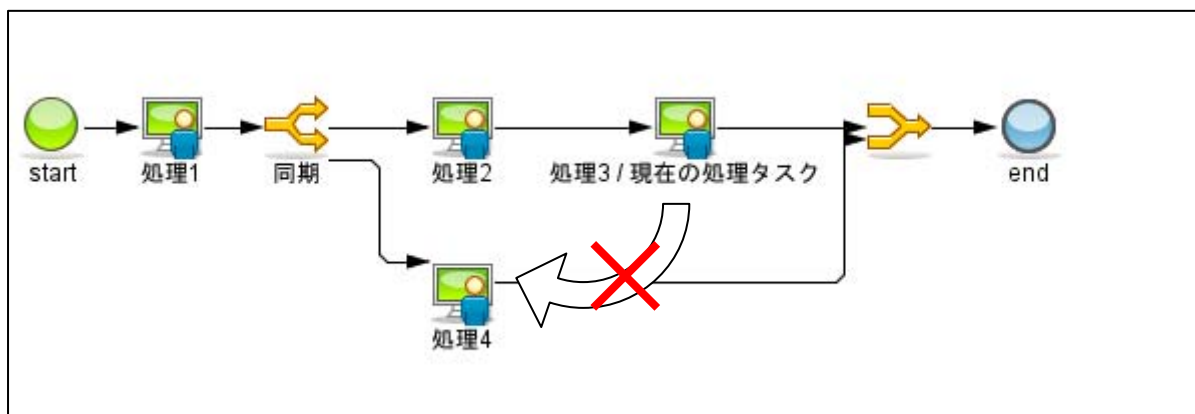
Q. プロセス操作画面でタスクの状態を変更しようとする以下のようなメッセージが出て、操作を行なうことが出来ない。



この処理を行う事はできません。

指定されたタスクは、既に処理待ちの状態となっています。
この状態の場合、該当処理を行う事はできません。
該当画面の再表示等を行って最新の情報を確認後、必要に応じて処理を行ってください。

A. 同期処理内において、もう片方のタスクに操作することはできません。



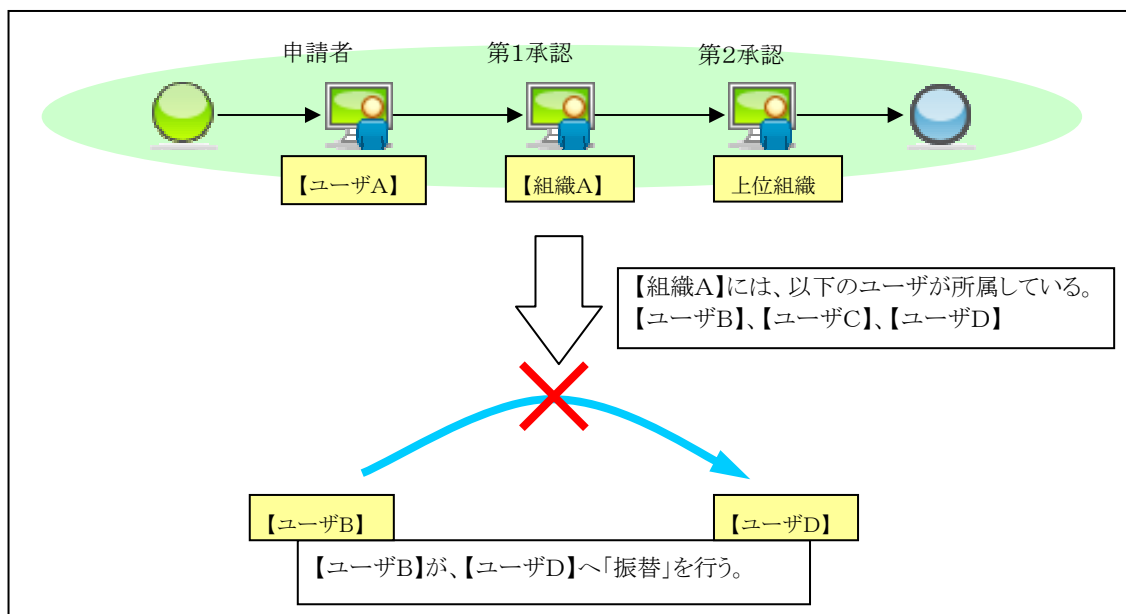
6.3.2 振替が出来ない

Q. プロセス操作画面でタスクの状態を変更しようとする以下のようなメッセージが出て、操作を行なうことが出来ない。



振替先指定者は既に承認権限を有しています。

A. 既に処理対象者になっているユーザに案件の振替を行う事はできません。

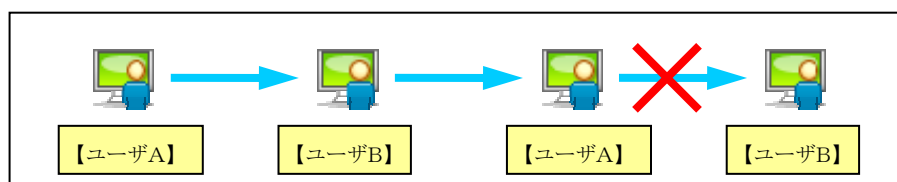


Q. プロセス操作画面でタスクの状態を変更しようとする以下のようなメッセージが出て、操作を行なうことが出来ない。



既に同様な設定が行われ、かつ振替先は再度振替られています。

A. 同一案件を、同一“ユーザ”に対して振替を行う事はできません。



6.4 その他

6.4.1 Workflow Designerがアンインストールできない

Q. Windows [設定]-[コントロールパネル]-[プログラムと削除]から、「Workflow Designer」を削除することはできない。

A. 次の手順で削除を行ってください。(WindowsXP の場合)

1. スタートメニューより、[設定]-[コントロールパネル]-[Java]を選択します。
2. Java コントロールパネルより、[基本]タブの[インターネット一時ファイル]より、設定を選択します。
3. 一時ファイルの設定より、[ファイルの削除]を行います。
4. 下記のディレクトリの削除を行います。

`C:\Documents and Settings\%ユーザアカウント%\bpw-designer7.0.0\`

5. レジストリより、下記のレジストリキーを削除します。

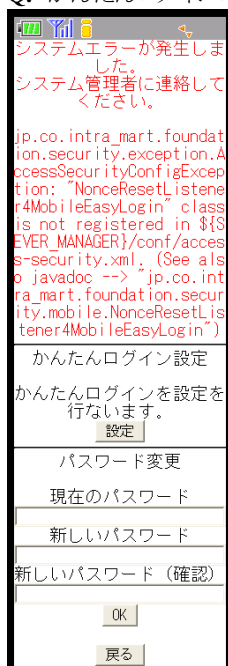
`%HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Workflow Designer`

7 携帯端末編

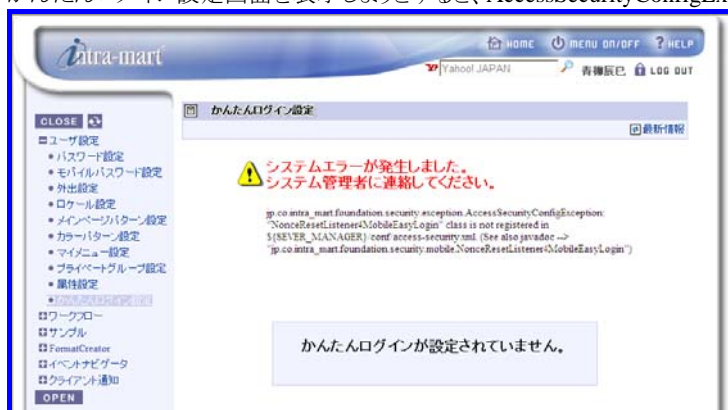
7.1 かんたんログイン

7.1.1 かんたんログインの設定ができない(AccessSecurityConfigExceptionが発生する)

Q. かんたんログインの設定を行おうとすると、AccessSecurityConfigException が発生する。



かんたんログイン設定画面を表示しようとすると、AccessSecurityConfigException が発生する。



A. かんたんログイン機能を利用する場合は、NonceResetListener4MobileEasyLogin クラスを、<% Server Manager の root %>/conf/access-security.xml に設定する必要があります。詳しくは、セットアップガイドの「かんたんログイン機能の利用について」を参照してください。

7.1.2 かんたんログイン用ログインページURLのWebサーバアドレスが間違っている

Q. かんたんログイン用ログインページ URL の Web サーバアドレスが間違っている。

A. <% Server Manager の root %>/conf/parameter.xml のパラメータ「im.web_server.url」を設定してください。
詳しくは、セットアップガイドの「かんたんログイン機能の利用について」を参照してください。

7.1.3 かんたんログインができない

Q. かんたんログインができない。

A. かんたんログイン用のログインページ URL が無効な可能性がります。
モバイルパスワードの変更画面、または、かんたんログイン設定画面に表示されている、かんたんログイン用のログインページ URL にアクセスしてからログインしてください。

かんたんログイン機能では、モバイル端末个体識別番号での認証に加え、かんたんログイン用ログインページの URL に自動的に付加したアクセスキーと iWP/iAF で保持しているアクセスキーでの認証が行われます。

モバイルパスワードを変更すると、アクセスキーも変更されます。これにより、以前アクセスしていた古いアクセスキー付き URL ではログインできないようになります。

定期的にモバイルパスワードを変更されない場合は、携帯電話に保存した URL から、かんたんログインが可能ですので、かんたんログイン用ログインページの URL を他人に知られないようご注意ください。

intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver. 7.0
エラーガイド

2010/11/30 第4版

Copyright 2000-2010 株式会社NTTデータ イントラマート
All rights Reserved.

TEL: 03-5549-2821

FAX: 03-5549-2816

E-MAIL: info@intra-mart.jp

URL: <http://www.intra-mart.jp/>